

ノーベル賞の野依教授と共同研究の鈴木正昭さん [高18]

「国の学術創成研究プロジェクト」のリーダーに

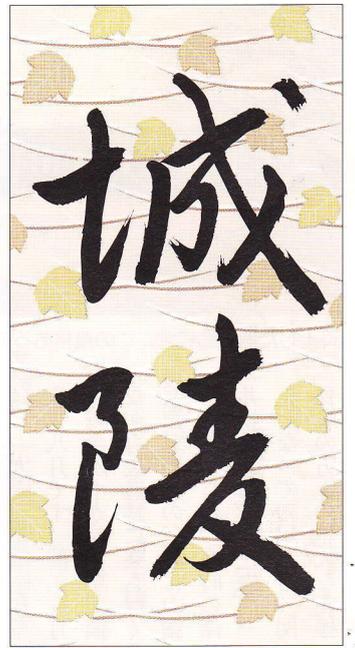


野依教授夫妻(前列)と鈴木正昭教授(後列左)3年前に撮影したもの

新学問の領域開拓が目的

二〇〇一年のノーベル化学賞に、名古屋大学大学院の野依良治教授ら三人が選ばれました。同教授の弟子に当たり、長年にわたって共同研究を進めてきた人として、恵那高第18回卒業の鈴木正昭・岐阜大学工学部教授(五四歳、生命工学科、中津川市千旦林出身)がいます。

野依教授は、十月中旬、横浜市で開かれた『第八回新化学国際シンポジウム』で「二十一世紀における化学の可能性」という基調講演をした際も、ノーベル賞の『触媒不斉合成』を説明した後、鈴木教授と共同研究している『脳内の分子化学』を説明し「化学者が脳研究に貢献できる可能性を示すことができた」と最新の研究成果を紹介しました。



— 第2号 —
 発行/岐阜県立恵那高等学校同窓会
 所在地/岐阜県恵那市大井町1023-1
 (〒509-7201)
 TEL 0573-26-1311
 FAX 0573-26-1313
 発行責任者 柘植 章
 題字は石井新太郎校長 [高12]

『年度別卒業生一覧表』の特集は次号に延期

本号で『特集・年度別の卒業生一覧表』を掲載する予定でしたが、会員の皆様からたくさんの原稿をお寄せ

いただいたため、それらを優先し、特集は次号に延期します。次号も多くのご寄稿をお

願いするとともに、それにより、再び特集が掲載できないときは、『創立80周年記念誌』に掲載する予定であります。どうかご了承下さい。

更に、鈴木さんはストックホルムでのノーベル賞授賞式にも、野依教授に随行する予定になっているほどです。

事業。具体的には、日本独自の医薬開発につながるバイオテクノロジーの新しい基礎理論を組み立てようというものです。このため、今年度から五年間で約十三億円の予算を投ずるとい

研究者二十二人が選ばれ、医学、工学、生物学など、今までの学問の枠を取り払い、全国の大学、研究所、民間企業の頭脳を結集し、鈴木さんがリーダーとして研究を進めていくことになります。

野依さんは、鈴木さんが名古屋大学卒業後、米国ハーバード大学で学んでいた一九七七年(昭和五二)、「日本の将来のために若い人

研究のつらさを感じた。研究者は有機化学者を中心に将来を嘱望される若手

のますますの活躍を期待し、心から声援を贈りましょう。

生命科学に新方法論を創造

〇年(平成二二)まで野依さんの研究を支えてきたので

鈴木さんは今後の抱負を、次のように述べています。

れも試みることがない、化学、生物学、医学融合型新領域の創成です。本研究に

今年の五月、将来を嘱望される鈴木さんは「国の学術創成研究プロジェクト」という、極めて重要で大規模な学術研究プロジェクトのリーダーに就任しました。これは文部科学省の管轄の下に、国の知的資産を形成するため戦略的に新学問の領域を開拓するのが目的の

現在、化学、生物学、医学といった単独学問領域だけでは、解決できない多くの重要な課題が山積しています。アルツハイマー病などの脳機能疾患の克服は、その一つです。このような問題は、生命科学に新たな方法論を創造しなければ、解決できません。

私の提案は我が国ではだいたいと思っています。

●記念事業の募金活動 順調に進む

遠隔地・若年会員目立つ

三か月で目標の50%達成

母校・恵那高等学校は、来年、創立八十周年を迎えます。

その記念事業の一つとして「同窓会事務局の設置と専任嘱託員の配置」が決まり、八月、会報『城陵』創刊号と寄付金趣意書を送付してお願いしましたところ、多数の皆様のご賛同・ご厚意により、極めて順調に進んでおります。

十一月六日現在の状況は次のとおりです。

★目標額：二〇〇〇万円

- ★受付件数：一〇四三件
- ★受付額：一〇〇一万円
- ★一件平均：九五九円
- ★達成割合：五〇・一%

会員名簿を一冊お手元に

たり金額(最終)約二万一千六百元に対して、かなり小口化しているが、件数は増加傾向であることなど。

★募金：一口・五〇〇〇円

★特典：二口以上で寄付いただいた方には、記念誌

を贈呈します。

★方法：振り込み用紙は趣意書に同封してあります。

募金目標額達成のため、会員の皆様のご賛同とご協力をお願いいたします。

七十周年の募金と比べてみた今回の特徴は、①会報・募金趣意書を読んで、遠隔地の会員も、いち早く募金に応じていただき、七十周年より出足好調であること、②就職会員だけでなく大学在学中の会員まで募金に応じていただいていること、③七十周年の一件当

創立八十周年記念事業の一つとして「同窓会員名簿」を発行します。

規格はB5版、約七〇〇ページ。内容は、会員氏名、郵便番号、現住所、電話番号などで、索引しやすい卒業年度順です。

80年を経た今、卒業生の総数は二万二千人を超え、

これを収録した『同窓会員名簿』は、同窓会員、級友との交際に欠くことのできない常備品です。あなたも是非、一冊お備えください。

★「同窓会員名簿」
一冊 五〇〇〇円

★申込み方法：同封の確認カードにご記入の上、返送してください。



炎上した旧木造校舎。この風格あるデザインを懐かしむ声が高い

校舎建て替え時期がきました デザインなどの決定に参画を

現校舎が竣工したのは、一九六三年(昭和三八)八月です。前年八月の校舎炎上から一年、涙ながら焼け跡に立ち尽くした日からの、誠に力強い復活でした。当時の深い復活でした。当時の深い復活でした。当時の深い復活でした。

その後の本校の発展はご承知のとおり。しかし校舎炎上から、来年、創立記念の年は四十年が経過します。新時代の本校の在り方が基本的に問われる今、校舎建て替えの時期も迫っています。生徒・職員・保護者・同窓会などの学校関係者が

●同窓会本会の主な動き 記念事業の全体を協議

創立80周年記念事業・実行委員会第3回実行委員会を九月二十七日、十九名が出席して開催した。

「現在までの取組み状況」と「今後の取組み」を協議(詳細は委員会の議題参照)

②会報第2号の発行と個人データの調査、③記念誌の原稿完成(五月)、④名簿の原稿完成(七月)、⑤名簿・記念誌完成(十月)

名簿広告の募集を開始

財務推進委員会十月十五日、十六名が出席して第1回委員会を開催した。

総務は行事予定を検討

総務委員会十一月七日、八名が出席して第1回委員会を開き、業務内容の確認と今後のスケジュールを協議した。式典後の祝賀会実施について意見が出た。

名簿の訂正作業行なう

名簿・記念誌作成委員会八月二十一日から三日間にかけ、全推進委員がクラス会名簿などを持ち寄り、住所不明の会員の説明作業を行ない会報を再発送。

式典に趣向を凝らす

記念事業委員会十一月十四日、七名が出席して第1回委員会を開いた。

名簿・記念誌作成委員

会八月二十一日から三日間にかけ、全推進委員がクラス会名簿などを持ち寄り、住所不明の会員の説明作業を行ない会報を再発送。

議事に校舎の改築計画

学校評議委員会十一月十三日、十一名が出席して開催。議題は「校舎改築整備計画について」。基本構想について検討し、同窓会報で広くアイデアを求めることとなった。

名簿・記念誌作成委員

会八月二十一日から三日間にかけ、全推進委員がクラス会名簿などを持ち寄り、住所不明の会員の説明作業を行ない会報を再発送。

名簿の作成計画決める

名簿・記念誌作成委員会十月十六日、二十五名が出席して、第1回委員会を開き、次の議題を協議。

名簿・記念誌作成委員

会八月二十一日から三日間にかけ、全推進委員がクラス会名簿などを持ち寄り、住所不明の会員の説明作業を行ない会報を再発送。

会員名簿の広告にご協力を

特典…申込者に名簿を贈呈

『同窓会員名簿』に掲載する広告の受け付けを開始します。同窓会員の皆様のご支援とご協力をお願いします。

また、同窓会員以外の一般企業の協賛広告も歓迎します。このような方に対しても、周知して下さるようお願いいたします。

▼掲載料金

一ページ全枠 五万円
二分の一ページ枠 三万円

▼特典…広告の申込みをされた方には『同窓会員名簿』を一冊贈呈します。

▼申込み方法…同封の確認カード(返信用葉書)

に○印を付けて返送の上、同封の広告原稿用紙に原稿を記入し、封筒で郵送してください。

▼代金支払い…同封の振込み用紙をご利用ください。

▼申込み期限…平成十四年三月三十一日まで。

▼詳細は、同封の『広告掲載ご協力をお願い』をご覧ください。

『校歌』の完成はいつか？

解明資料を捜しています

母校の校歌は「昭和四年度から歌われた」とされていただけで詳細は不明です。

どなたか「校歌の完成時期を記録した資料」をお持ちの方はありませんか。

例えば「恵那中学校同窓会会報・第三号」(昭和四年発行、規格はB5版)には「校歌の完成時期」の記録があると推定されたため、同誌を捜しています。

写真は昭和三年発行の同

誌・第二号(古山茂久さん「中21」所載)ですが、同年秋、天皇ご即位の記念事業として①校旗制定、②校歌制定、③制服ボタンの改定の三件が決定され、校歌は「作詞を島崎藤村先生に、作曲を草川宣雄先生に依頼」とあります。

その後の経過は、第三号に掲載されていると思われるので、そこで同誌を所蔵の方は、どうか同窓会事務局までご連絡ください。

八十年の軌跡

校歌の誕生Ⅱ作詩者の巻Ⅱ

一九二二年(大正一一)恵那中学校の創立当時の阿部栄之助・初代校長は、最初、校歌の作詩は島崎藤村、作曲は弘田龍太郎を予定していたようです。



若き日の所さん(昭和7年撮影、31歳。校歌を作詩して4年後)。後に文学博士、徳川林政史研究所長、『岐阜県史』監修者となる

阿部校長は若いころ、小諸塾の教師だった藤村から英語を教わったので、その縁を頼りに作詩を依頼したところ断られました。その理由は、①大作『夜明け前』の構想が固まってきた時期であること、

②詩作を離れてから年月が立ち過ぎていること、③若い人の校歌だから若い新進気鋭の人がふさわしく、自分は不資格であることなどです。

一九二八年(昭和三)夏の終わりごろ、再度上京して懇願する阿部校長に藤村も折れ、

「校歌」の作詩は 一二七歳の所三男さん

『夜明け前』の取材で知った木曾福島在所三男さんを紹介し、補作することも承諾しました。その帰途、阿部校長は福島所土蔵仮住まいの所さん宅に立ち寄ったようです。

その所さんは、一九〇〇年(明治三三)松本市生まれで当

時二十七歳。教員で生計を立てながら歌作の道を進もうと、国学院大学高等師範科へ入学したところ、この年五月の木曾福島の大火で妻・松枝さんの実家・勝野家が焼け、同家再建のため大学中退を余儀なくされてしまいました。

阿部校長の依頼を聞いて所さんは断りました。なにしろ短歌は趣味で校歌とは無縁ではないにしても、肝心な大井町についての知識が少なく、知っていることと言えば松枝さんの祖母・さく(古山久親の娘、妹・千代は馬籠・大脇

家へ嫁ぎ藤村の初恋の人と言われる「おゆう」を生む)の実家のある町という程度だったからです。しかし藤村の推薦とあつては断れず、作詩期間一か月をもらいました。

大井町へ出向いた所さんは沸き上がったイメージから、一晩で四節の歌詞にまとめ上げました。しかし、福島へ帰って読み返してみると、生硬で語感の悪さが目立ち、悪戦苦闘の推こみが続き、ようやく歌詞を送り出したときは、約束の期限ぎりぎりでした。

藤村の補訂(「作詞」が詩人らしく「作詩」となっている)と作曲も終わり、校歌が歌われ始めたのは、一九二九年(昭和四)からです。詳しい時期は分かっています。

さて、時は流れて一九六九年(昭和四十四)ごろ、所さんは岐阜県史編纂室勤務の丸山幸太郎さん「高8」から、校歌が今も歌われていると聞き驚きました。高校になって廃止と思っていたからです。早速、歌詞を眺めてみると、少なくとも第二、三、四節の結句は自分が作詩した記憶がなく、この部分は藤村が補作したものと推定されました。

「一度、恵那高へ行ってみたい」という所さんの願望にこたえて、その年、丸山さんは七、八人の同窓生を誘い、所さんを母校へ案内しました。所さんの前で彼らが愛する校歌を歌ったとき、所さんの目から光るものがあふれ出ました。

晩秋から初冬へ―城ヶ丘に風荒ぶ時季となりました。私の目前には、皆様になじみの秋色濃い城ヶ丘の光景が展開しています。

校庭の永井浩先生「中195卒」の『志向』像脇に立つ花の木は、今が紅葉真っ盛りです。鮮やかな朱色が、澄んだ青空にひとさわ映え、背景の笠置山の稜線も、とりわけ美しく、なだらかな山容をくつきりと浮かび上がらせています。

城陵論壇

先日、秋のさわやかな一日、恵那高校の近くを散歩していたときのことでした。「朝立ちくれば」の城陵歌がふと胸に沸き上がり、数十年前の日々が、目の前の恵那高生の姿と重なって、懐かしくよみがえってきました。同窓会の皆様の多くも、折にふれて、このような感慨をお持ちになることがあるかと思えます。恵那高等学校同窓会は、この城ヶ丘での青春の一ページを時を超えて共有し、会員の

暑い暑い今年の夏に産声をあげた私たちの『城陵』がひとわたり会員の皆様の手元に届くと、全国津々浦々から、温かい励ましの声と共に、心のこもったご厚志が次々に寄せられます。



せられ、胸が熱くなる思いをしています。

更に、八十年の歴史が今刻一刻と明らかにされ、深められています。本誌編集の古山

親睦はもとより、母校の更なる発展への協力を目的とする団体であります。現在、本会組織におきましては『創立80周年記念事業』



の推進のため、各卒業回数ごとに実行委員が選定され、献身的な活動を続けておられます。例えば『名簿作成委員会』では、八月の三日間、同級会の名簿を持ち寄って、懸命な

精さん「中22」の労を惜しまぬ探求によって、校歌の作詩・作曲の所三男・草川宣雄両氏の全貌が明らかにされ、校歌誕生の秘話も、追々明らかされることになるでしょう。

『創立八十周年』に思う

恵那高等学校長

石井 新太郎 「高12」

広島原爆記念公園内にある『学徒動員戦没者慰霊塔』に刻まれた「岐阜県恵那中」の文字の由来も、この度明らかにされました。歴史は後世の者

の手によって深められ、また深められなくてはならないものである、と実感しております。先の永井先生の『志向』像の横にこの程一つの碑が建立されることになりました。高

改訂作業を続けられました。今後『財務委員会』におきましても、寄付金や名簿の広告のお願いのため東奔西走される予定になっております。

各地に支部が組織され、むしろ本会よりも活発な活動が展開されております。しかし、恵南、岐阜、関西地区には、現在、支部がありません。こ

組織の強化と活動の充実を

恵那高等学校同窓会副会長

市川 康夫 「高19」

ただ、残念なことに実行委員が未確定の卒業年次があるため、一部に遅れが生じておりますが、早急な体制作りによりかかっております。支部組織につきましては、

それらの地区の方々には、是非とも組織化をお願いし、本会もバックアップ体制をとります。早期の支部結成を図りたいと思っております。もともと恵那高等学校同窓

本校の行く末を展望し、それに寄せる熱い意思を集約したものです。高校四回生の方々と、市の『碑の町づくり委員会』の寄贈になるものです。高い志こそ、ノーベル賞受賞の野依教授と、その愛弟子鈴木正昭氏に共通する特性です。志向は、光より早く、現在の自分と将来の自己の風姿とを結ぶものだ、という言葉があつたはず。あの風格高かつた旧校舎炎上から四十年、校舎建て替えの時期も追々迫ってきている折も折、私共は在校生共々、高邁なる志を抱かねばならないと、切実に感じております。

会は、支部・地区の同窓会活動や卒業回数別の同級会・クラス会の活動に支えられて発展してきたといえます。出席率の向上を図るための創意工夫をこらした企画には、心から敬服しております。今後、地区・卒業回数別の活動と本会の活動が、両輪のごとく相まって、同窓会の組織の基盤強化、活動の充実につながることを目指して、努力してまいりたいと思えます。皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

同級会名簿ご提供ください

各卒業年次ごとに開催される同級会・クラス会などの主催者にお願いたします。今後、同級会などのために『名簿』を発行された場合は、誠に恐縮ですが同窓会事務局へ一部ご提供ください。事務局では、その名簿を基に同窓会員の異動、特に住所移転などの訂正に利用させていただきます。

また、一緒に当日の資料、写真などもお貸しくだされば、会報にニュースとして掲載させていただきます。

会報用話題の連絡のお願い

各支部・地区で同窓会活動を実施されたとき、または同窓会員に関する重要な話題をキャッチされたときは、お手数ですが同窓会事務局まで、電話・FAXで概要をご連絡ください。

原稿は事務局で作成し、会報のニュースとして利用させていただきます。

恵那高同窓会事務局

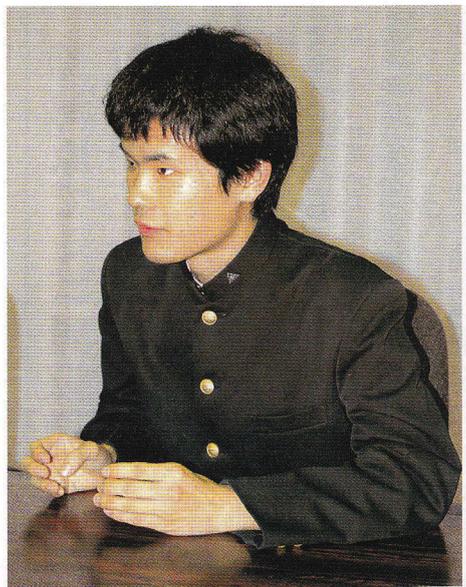
電話 〇五七三二二六

電話 〇五七三一

FAX 〇五七三一二六

電話 〇五七三一

母校のトピックス



変光星の観測について説明する大島君

大島誠人君が”大金星”
変光星の増光をキャッチ

二年生の大島誠人(ともひと)君(恵那市大井町)は、七月二十三日午後十時半過ぎ、夏の星座「や座」にある変光星「WZ」を観測中に、急に明るくなる増光という現象を世界で一番早く見つけました。

初めてという”大金星”。

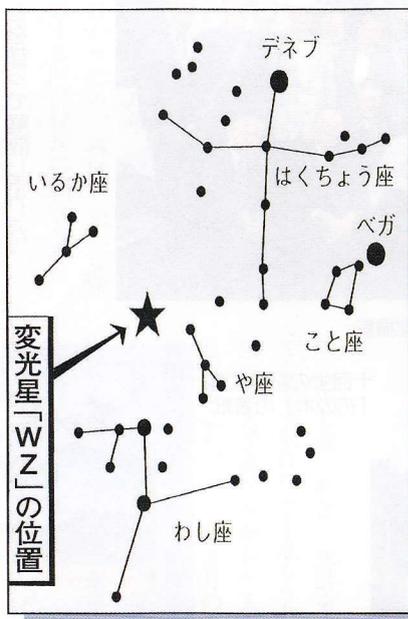
ほぼ三十三年に一度の割合で見られる現象で、次回は二〇一一年ごろと予想されているのに、大島君が十年早い増光を見つけ、天文愛好家の知

人を通じて、日本変光星観測者連盟と国際変光星ネットワークにインターネットで通報。その後、国内を始め、ベルギー、イギリスなど海外でも続々と確認されました。

大島君は小学校五年生から天文に興味を持ち、父親からもらった古望遠鏡が観測のきっかけ。六年生から変光星の観測専門になり、晴れた日は毎晩二、三時間、年間百日ほど観測。自宅のベランダが天文台で、冬季は六枚ほど着込

んで寒さをしのぐといい、その熱意が今回の大発見につながったわけ。

大島君は今回の発見について「余りにも明るいので最初は違う星を見ているのかと思った。専門家の人たちから『おめでとう!』と祝福されて、すごい発見をしたんだなあと実感した」そうです。そして「将来は宇宙物理学の分野に進んで、更に深く変光星の研究がしたい」と、更に大きな夢を抱いています。



成瀬智美さんに県民栄誉賞



成瀬智美さん

今年三月「第十七回・植物画コンクール」で文部科学大臣賞を受賞し、本紙創刊号で紹介した成瀬智美さん(三年、中津川市阿木)に、岐阜県民栄誉賞が贈られることになりました。

表彰式は十二月十日、県民文化ホール未来会館で行われ、梶原拓・岐阜県知事

から同賞が贈られる予定です。また、成瀬さんの名前と功績は、県民ふれあい会館一階にある「岐阜県民栄誉賞銘板」に記録され、永くその栄誉がたたえられることになっています。

花の木
図書館

文芸から引用

「自費出版、田中久雄発行、電話〇五七三二二五一九一〇二、五〇〇円」

「面白い実験で

たしかめる生物の不思議」

梶田高申、恵那高教諭著

恵那高同窓会員、恵那高職員などの出版を紹介する欄です。そこで、これらの方が出版された際は、是非、同窓会事務局に一冊ご寄贈ください。この欄で紹介させていただきます。

「昭和の子ども、

田舎の暮らし」

新田鉦三「中12」著

昭和初期、新田さんの幼少のころを振り返ってつづった恵那地方の人々の暮らしの記録。そこには美しい自然と共に、子供も大人も助け合う連帯がありました。私たちが忘れていた懐かしくて貴重なものを、思い出させてくれる図書です。

「平凡社新書、七〇〇円」

「遺歌集・滔々」

水野潤二「中15」著

平成七年に病没された水野潤二さんの作品をまとめ、澄子夫人が自費出版されたものです。

「水野澄子発行、非売品」

「詩集・四季の節」

田中久雄「高10」著

六十歳になり、社会復帰したことを契機に刊行した詩集。三十六編のなかで、「色彩」「いたずらに年の流れる中で」「女の人の手」などの作品が素直にまとまっている(中日新聞「中部の

「私家版・おいてけぼり日記」

伊藤千恵著

平成十年十二月に死去された伊藤善生さん「中24」の夫人・千恵さんが、夫の魂と一緒に生きた一年間を、句と日記でつづった追悼記録の自費出版です。

「伊藤千恵発行、非売品」

団結誇る実科20回生 学徒動員先の工場も訪問



学徒動員された帝國繊維を訪問した実科20回生一行(平成5年)

『惠那高美女二〇回』 三重子幹事「実20」も毎年、同級会を行なっており、今年六月十五日、南木曾町の木曾路温泉ホテルに四十二人が集まりました。この学年は、団結が固く一体となつて行動します。それもそのはず、戦争中、十四、五歳で学徒動員され、工場で起居生活を共にしたからです。

人は大垣市の帝國繊維大垣工場へ動員され、落下傘、飛行機の翼に使われる麻の懇紡糸の製作に従事したのです。一九九三年(平成五)五月の同級会に動員時代の写真が持ち出されたところ、それから話が弾み、沼幸枝さんの提案で四十八年ぶりに帝國繊維の訪問が決まり、十月二十五日、同工場への動員組から四十二人が参加しました。

当時の建物は空襲で焼け、自動化された新工場には、かつての面影はありませんでしたが、当時と同じ工場内においておみやげに触れ、懐かしい青春時代がよみがえりました。

『自画像』

東京日仏学院教務部

熊谷 八代子 [高16]

「この文章は、朝日カルチャーセンター通信講座の『自分史入門』に使われた教材です(編集部)」

私の身に、いったい何が？穴のあくほど手紙を見つめ、しばらく固まってしまった。

私の勤務するN学院は、日仏の文化交流や仏語の普及

若者よ国際感覚を持とう!

二年前(一九九九年)の六月、グルド・モンターニュ在日仏大使から自宅に手紙が届いた。「あなたに教育功労章シユヴァリエを叙勲することに賛同し、喜んでお知らせします」仏語で書かれた手紙はこんな内容だった。

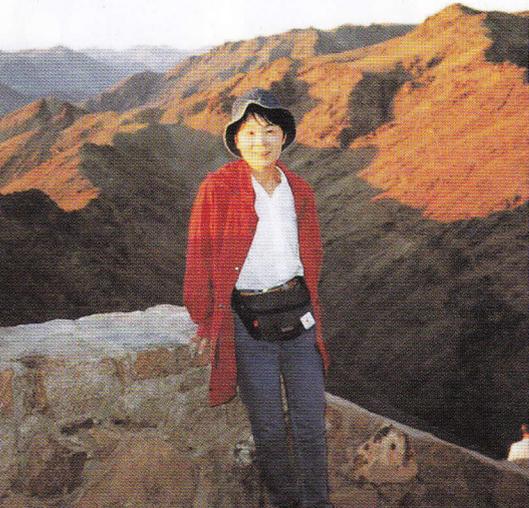
「まさか・・・」何かの間違ひではないだろうか!勲章とは無縁の世界で生きてき

を目的とするフランス政府の公式機関である。教務部長の秘書として二十五年間勤務し、職場では最年長、最古参になつていたが、九人の仏人

ボスを受け入れるのに七転八倒する。さらに仏外務省から派遣される上司たちは、同国に四年以上留まれないから、ようやく信頼関係が築けたころには転勤になる。息つく暇も無く、次なる『戦い』のゴングは鳴らされ、リング場でメッタ打ちにされるボクサーや、太鼓をたたかれ、フラフラになりながら踊り続ける猿回しの猿と自分の姿が一つに重なってしまう。情けないやら、おかしいやら。これほど自分に合わない職場によくも長く勤められたものだと思

ボスに仕えた日々は、まさに『修行』の連続であった。外資系企業で働くには、自己アピールや理論に長け、粘り強い交渉力やアグレシヴな仕事ぶりも要求される。血液型がA型の両親から生まれたせい、私にはこうした素質が何一つ備わっていない。それどころか内向的で自己防衛本能の強い性格は強烈な個性を「よし」とする仏人

十六歳で芭蕉の『奥の細道』に出会い、旅の空に生涯を送りたいと、密かに激しく熱望した。そのせいか毎年、「旅」の出来る職場を与えられ、「旅」のキャリアは三十年以上になる。仕事「命」のキャリア・ウーマンでもない私に、なぜ勲章がきたのだろう?しつくりしない思いで過ごしているうちに、ふと思ひ当たったことがある。



シナイ山頂(エジプト)でご来光を迎える熊谷八代子さん

後押しするための「勲章」だろうか?予期せぬとんでもない物が迷い込んでくると、あれこれと思いを巡らしてしまふものらしい。

恵那中魂 2



東京工業大学・学長時代の末松安晴さん

「科学技術の芽は少年時代の『手作り体験』から生まれ、将来、大きな成果をもたらす」——そう主張するのは末松安晴・国立情報学研究所長(元・東京工業大学学長)「中24」。この信条は末松さんの経験から生まれたもの。

坂下小学校時代の末松少年は、あの竹ヒゴ、紙張り、ゴム動力の模型飛行機のチャンピオン。滞空時間競技では東濃地区で優勝し、岐阜県大会に出場したほど。恵那中時代は電気模型とラジオ製作に熱中。トランスもモーターもコイルは手巻き。完成した電気機関車は本物そっくりに走り回り、

夏休みの宿題に出して入賞。十円硬貨よりもお粗末なメダルを、恵那中時代の思い出として、現在も大切に保存しています。

やがて、趣味はラジオ製作へと変わり、汽車通学の待ち時間は、鉄砲屋電気店(現在・エイデン恵那店)で連日、組み立ての見学。東工大の大学院時代には、N T T研究所のガラス工場で三極真空管を自作。これで組み立てたアンプの音楽は、長い間、末松青年の心をいやしてくれたとか。

手作り体験は未来を拓く

元・東京工業大学学長 末松 安晴さん [中24]

この教室から「未来を拓く科学技術者が巣立つ」。末松さんは、そんな壮大な夢を描いています。

一九六〇年(昭和三五)東工大の助手となったとき、最後の通信「光通信」の実用化に夢をかけ、半導体レーザーの手作りという理論構築の毎日。「恵那中魂」は、ついに日本の光ファイバー通信技術が、世界一に輝くのに貢献しました。髪の毛ほどの光ファイバー一本で、電話数万通話に昔の話。今や一本で1メガバイトの画像を100万も送れるようになっていきます。

一九九三年(平成五)東工大の学長を退任し、高知工科大学の設立・運営に従事して今年四月、国立情報学研究所長に就任しました。

研究生生活を離れて九五年(平成七)からは、中津川市で「岐阜サイエンス・サマースクール」を開校。これは中学生約百人を対象にした三泊四日の「手作り体験教室」で、少年たち自身と同じ体験をさせる試み。先生は末松さんを始め超一流の理科学系大学教授ばかり。この教室から「未来を拓く科学技術者が巣立つ」。末松さんは、そんな壮大な夢を描いています。

地区・クラス短信

記念講演は丹羽宏さん

「土岐市城陵会」 山村武一会長「中24」の総会は、六月十日、セラトピア土岐で、柘植同窓会長、石井校長らの来賓を招き、会員四十三人が出席して開いた。記念講演は丹羽宏さん「中23」の「野鳥と人生」。

母校の現状と将来を聴く

「瑞浪恵那会」 渡辺千介会長「中22」の総会は、十月二十八日、サンライズ瑞浪で開き、柘植同窓会長、石井校長ら来賓五人、会員二十四人が出席した。石井校長の講話「恵那高の現状と将来について」を聴いた。

軽音楽のミニコンサート

「中津川恵那高会」 間

譲嗣会長「中24」

は、十月二十八日、川上村夕森荘で十二人が出席して開催。例年どおり東京から小川留三さん「中12」、石垣信一さん「中19」、関西から村瀬徳之助さん「中12」らが元気に参加した。

名鉄ニューグランドで

「名古屋恵那高会」 各務芳樹会長「中18」の十三年度総会は、十一月三十日、名鉄ニューグランドホテルで開き、会員百三十人に柘植同窓会長、石井校長ら来賓が出席して開いた。

東京・関西から十二回生

「坂下城陵会」 古谷竜三「中19」世話役の総会

大正ロマン亭で開く

「明智恵中会」 保母政基会長「中12」の第六回総会は、十一月二十七日、明智駅前の大正ロマン亭で十七人が参加して開いた。

来年は記念式典の当日

「中学十七回生会」 今井正己・幹事「は十月二日、瑞浪市の明世温泉・観月荘に二十二人が集まって開催、懇親を深めた。来年は創立80周年記念式典の当日、式典に出席後に開催する。

吉田美一さんの墓参り

「恵中一八会」 世話人代表・安江宗夫さん「中18」は、十月三十日、三十二人が参加し、坂下町の故・吉田美一さん「中1」の墓に参り「城陵歌」を合唱した後、川上村・夕森荘で懇親会。翌日は妻籠・馬籠宿を見学して解散。

編集担当 古山 精「中22」



草川宣雄さん

草川宣雄さんの詳細判明

「城陵」編集部では、校歌作曲者・草川宣雄さんの子孫を探していましたが、長野市教育委員会の協力に

より、このほど、草川誠さん(末弟・草川信さん次男)と接触。履歴・プロフィールと写真を提供いただきました。詳細は次号の「八十年の軌跡」で紹介いたします。

これで、創立80周年を機に作詩者・所三男さん、作曲者・草川宣雄さんの肖像写真を校長室に飾ることができるようになりました。